

東日本大震災 復興・支援活動ニュースレター

カトリック仙台司教区・カリタスベース

発行・編集：仙台教区サポートセンター
〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-2-12
仙台教区サポートセンター
Tel.022-797-6643 Fax022-797-6648
支援金振替口座：00170-5-95979
名義：カリタスジャパン
※通信欄に「東日本大震災」とご明記ください。

前号に引き続き、カリタス南相馬、カリタス釜石、カリタスいわき（仮称）、そして、オリーブの会の活動についてご紹介いたします。

カリタス南相馬は、7月から、ボランティアの方々の受け入れを計画し、3密にならないように、人数も制限し、新たに出発しようとしていました。ところが、ボランティアの方々の多くは首都圏から来られる方が多く、断念せざるを得ませんでした。これは、カリタス釜石も状況は同じでした。カリタスいわきは、それまでカリタスさいたまが中心になって活動していましたが、今回から本格的にカリタスいわきが中心になって活動を始めたところです。オリーブの会は、震災当初、亘理の仮設住宅で支援を始め、現在は、亘理教会を会場に地道に、活動を続けています。どこのグループも、これまでのかかわりで培った絆を大切にしながら、今後も活動を続けてまいります。

かかわり続ける大切さ

カリタス南相馬 所長 南原 摩利

カリタス南相馬では、新型コロナウイルスの感染拡大予防のため3月3日からボランティアの宿泊受け入れをお断りしております。

再開を予定して7月1日から各部屋一人という個室体制でボランティアの受け入れを準備していましたが、首都圏での感染拡大が再び増えてきたため、受け入れを当面見合わせる事となりました。

現在は、スタッフおよびシスターと、高齢者、特に独居の方の戸別訪問による安否確認を行っています。「エールをおくろう」やニュースレター（「カリタス南相馬だより」）、手作りマスクをお手紙とともにポストインしたり、訪問し、玄関口でお声をかけさせていただいています。皆さん口々に「早くみんなと会ってお話したい」「毎日することがなくて退屈」と言われますが、手作りマスクへの感謝のお言葉や「人と会う機会が少なくなって、こうしてお話するだけでもうれしかった」などと笑顔で話してくださる元気な顔を見ることができ、こちらも反対に励まされています。ある復興団地の自治会長さんは「なかなか集まらないからこうやって一軒一軒まわって声をかけてくださって助かります。高齢者がほとんどだから、みんなうれしいと思いますよ」と、戸別訪問を喜んでくださいました。

その他、地元のお米農家さんから稲の種植え作業の依頼があり、スタッフ2人でお手伝いに行きました。ご高齢のご夫婦2人で作業なさっているので「大変助かった」と喜んでいただくことができました。収穫の時期が今から楽しみです。

6月に入ってから、新型コロナウイルスにより休校だった学校も始まり、隣接しているさゆり幼稚園の園児32人と先生方と共にカリタス畑に集合し、サツマイモの苗の水蒔き作業と、だだちゃ豆の種まきを行いました。「初めて土にさわった」、「初めて種まきした」と言う園児たちは、楽しそうに目を丸くしながら「これは何?」「さつまいもになるの?」と尋ねてきたり、「大きくなあれ」「お砂のお布団かけたよ」と報告してくれながら種をまく姿がとてもかわいかったです。幼稚園に帰ってからの絵描きでは、畑の作業の様子とともに、畑の説明を担当したスタッフの姿も描かれていてほほ笑ましかったです。カリタス畑が子どもたちの情操教育に役立てばうれしいと思います。



カリタス畑で農作業体験 大きく育つのが待ち遠しいね！

市内の別の復興団地では孤独死された方がおり、私たちのベースとは直接にはつながっていない復興団地だったのですが、私たちもよく知っている「足湯隊」というボランティアさんがかかわっていたため、復興団地の代表の方と連絡を取り「カリタス南相馬だより」と「エールをおくろう」の応援メッセージとともに支援物資をお届けする形で訪問することができました。

新型コロナウイルスの感染拡大が終息しない状況下で今私たちができることは、少しでもつながりを持つことではないかと感じています。通常のサロン活動やイベントなどの活動はままならなくなりましたが、この貴重な関わりを機に必要な支援活動につながればと願っています。



復興団地へ支援物資のお届け

住民の方に集会室に受け取りに来ていただく形でお渡ししました



左上・左下：戸別訪問のようす
右上：田んぼでのお手伝い



再び開かれるとき

カリタス釜石

佐藤 光慶

カリタス釜石では4月下旬からのスタッフ在宅勤務期間を経て、5月中旬には2か月ぶりの戸別訪問を再開いたしました。

フリースペース「ふいりあ」やお茶っこサロンにお越しになる方のお宅を訪問いたしました。「今は我慢の時だね」と、得意の裁縫を生かして手作りマスクを制作する方や、ご自宅の庭や花の手入れをする方など、変わらず元気な様子のニュースを聞くことができました。

6月2日からはフリースペース「ふいりあ」が3か月ぶりに開館となり、再び皆さんの集える場が再開いたしました。しかし、以前と同様のご利用方法とはいかず使用条件を設け、段階的に始めていく再スタートです。ご使用条件は下記に一部抜粋し記載いたしました。周知チラシ原文のままですが、どうぞ、ご覧ください。

- ・開館時間は、月曜日から金曜日の午前中(10時～12時)のみです。
- ・卓球台のご利用は中止とさせていただきます。
- ・お菓子、お飲み物の提供はいたしません。「ふいりあ」内での飲食もご遠慮ください。ただし、脱水症予防のための飲み物などは各自ご持参してください。
- ・3密(密閉、密集、密接)を避けるため、席数が限られています。

常連の皆さんを中心に立ち寄ってくださり、お話や毎年「ふいりあ」内に飾っている七夕の飾り制作などをして過ごされました。また、「ふいりあ」で卓球をすることが楽しみの住民さんは、「いつから卓球できる？卓球ができないのは残念」と、卓球再開を待ち望むお言葉をくださる一方で、感染防止の観点から再開するにはまだ早いのではないかと話される住民さんもいらっしゃいました。(7月14日現在、卓球台のご利用は中止したままです。)

7月に入ってから紙コップを使用し、コーヒーなどの飲み物やお菓子をお出ししています。「コーヒー飲みに来たよ！」と、以前から「ふいりあ」でお飲みになるコーヒーが好きな住民さんが、顔を見せてくださるようになりました。



再開した「ふいりあ」で七夕かざり作り
全国のボランティアさんからも短冊が寄せられました

毎月定期開催していた体操教室も募集人数を約半数にし、月二回に変更。会場内の消毒、換気、マスク着用の徹底、体操内容も汗をかくなどの激しい運動は控えることとし、再開いたしました。参加者の中には3月からまともに体を動かしていないとおっしゃる方もいて、皆さんにとって充実した教室となっています。



再開した体操教室

ボランティアさんの受け入れに関しては、中止を継続していますが、ベテランボランティアさんとおこなったオンラインでのミーティングの中で、『「ふいりあ」の皆さんと顔を合わせてお話ができたら…』という声があり、オンラインツールを用いて開催しました。参加された住民さんからはボランティアさんへの感謝の気持ちや近況、会いたくても会えないお気持ちを伝え、ボランティアさんからは釜石の皆さんへのエールをいただきました。

グリーフケア(傾聴活動)のボランティアさんからは対象者の方へお手紙を書いてベースへご送付いただき、スタッフがお届けしています。ボランティアさんの体調やお住いの地域の自然災害を心配されている様子ですが、何よりも「会いたい」という強いお気持ちが伝わってきました。



オンラインでの再会 画面のこちらも向こうも笑顔！

全国に発令された緊急事態宣言により、活動に大きく制限がかかる時期を過ごし、新しく示された生活様式などと照らし合わせての活動が求められているかと思います。そうした中で今までと同じく共に歩み、寄り添え続けられればと思います。

一日も早いコロナウイルス収束を心から願っております。



「カリタスいわき（仮称）」交流出張カフェ活動について

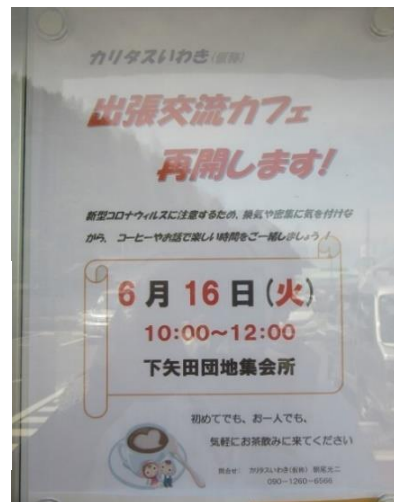
いわき教会 佐藤 賢二

私たちは、福島県いわき市にある復興住宅、北好間団地と下矢田団地を訪問しています。

コロナ禍等により、復興住宅集会所が使用禁止となっていました。6月になって、感染防止策の実施を条件に、集会所の使用が許可され、6月15日には北好間団地、16日には下矢田団地でのカフェ再開が決まり、いわき教会信者メンバーが訪問しましたので、その様子を参加者からそれぞれレポートします。

なお、7月にはいつて新型コロナウイルス感染症拡大の第2波ともいわれる状況になり、7月カフェの急きょ中止を余儀なくされました。

状況が好転すればカフェの再開を考えていますが、今のところ先を見通せないのが現状です。



復興住宅掲示板のカフェ再開のお知らせ→
6月に再開したものの、残念ながら7月は中止
となってしまいました

今後のボランティア活動について

いわき教会 石井 キヌ

「玄関のドアを閉めると、外の様子が全く分からなくなってしまう……。人との交流が限られている」と、復興住宅にお住まいの皆さんは、どなたも一様におっしゃいます。

故郷での生活は、自然の中で心許せる地区の皆さんと助け合いながら、楽しく生活してされていたことが、言葉の端々からうかがい知ることができます。震災を経験し、懐かしい故郷に帰ることを諦め、なじみのない「いわき」の地で、団地暮らしをするなど全く想像もしていなかったのではないのでしょうか。

私たちボランティアが同うお茶会にお出かけくださる方はまだ良いと思うのですが、おでかけいただく方は限られており、男性の方はほとんどいらっしゃいません。残念なことに、この2、3年の間に復興住宅内で孤独死を迎えられた方もいらっしゃいます。

今後の課題として、多くの皆様に喜んで足を運んでいただける活動の工夫が必要と感じています。私たちの活動に参加し、顔見知りの方が増え、人と人とのつながりの輪が大きくなっていけば、今までお住まいの故郷に近い関係が自然と築かれていくのではと思うのです。

私は、3.11の震災以前から「傾聴ボランティア」の一員として、一人暮らしの方や外出が困難な方のお宅を訪問し「お話し相手」としての活動をしていました。この経験を少しでも「カリタスいわき（仮称）」の活動の中に活かしていけるようにと思っています。



6月、下矢田団地集会所でのカフェ



紙芝居を披露する石井さん

下矢田団地出張交流カフェに参加して

聖母訪問会 檜葉修道院 シスター藤原 てる

新型コロナウイルスによる自粛が解かれ、3か月ぶりに下矢田団地集会所の「カリタスいわきのお茶っこ」に参加しました。久しぶりに8人の元気な高齢の女性が集まって来られ、「会いたかった!!」「お元気でしたか?!」、手作りマスク着用の笑顔、指タッチで再会の喜びに包まれ、胸を熱くしました。

和やかに話が弾み、お代わりコーヒーのころに、ボランティアの力強い拍子木が鳴り、昔懐かしい芝居小屋の幕開けとなりました。紙芝居で「曽根崎心中の悲恋物語」などが演じられ、拍手喝さい!! 思いがけない催しに喜び、にぎわいました。

私はそんな中で、いつも参加される一人暮らしのOさん（ご高齢の男性）がいらっしゃらないのが気になりました。側のAさんに尋ねると、「最近、会っていない」とのこと。「いつもこられるのにね、どうしているのかしら? 訪ねてみましょう!」ということになり、Aさんの案内で初めて住宅棟に行きました。ちょうど、3階のOさんの所へ宅配のお弁当が届けられるのと一緒に、すんなりと元気な笑顔のOさんとお話でき、ほっとしました。

「お茶っこ」を交わりの場として楽しみにしている人々が多いので、感染予防対策をして、月1回でも集まる場を設けることは、安否確認のためにも必要だと思っていますが、新型コロナウイルス感染症拡大により、再び中止になり、とても残念に思います。



次回も行きたい「出張交流カフェ」

いわき教会 佐藤 幸子

私が、北好間団地と下矢田団地の集会所にボランティアに行ってみたことは、カフェはボランティアが提供するコーヒーやお茶を召しあがりながら、皆さんでお話を楽しむ場になっていることは、もちろんですが、集まって来られる皆さんは、今あるご自身の思いを私たちと分かち合いたいというお気持ちがあると受け取りました。

帰り際に、参加者のお一人から「次回も来るんでしょ」と言われ、「ハイ」と答えた私でした。

大震災と原発災害から9年を超える年月の流れの中で、「いつも会いに来てくれる人がいる」、それだけで喜んでくださっていることが伝わりました。また、次回も行きたいと思っています。



北好間団地集会所でのカフェ 再開が待たれます

コロナ後の再会

オリーブの会 野田和雄

オリーブの会は6月24日コロナ禍対策の試行錯誤を繰り返しながらも津波被災者との出会いを再開しました。

「元気だった?」「また会えて嬉しい!!」オリーブの会の再開案内のはがきを読みこの日を心待ちにしていた人たちが集まりました。3か月の空白がなかったように笑顔で再会を喜びました。

振り返れば2月末の落語会を最後に中止になって3.11 追悼集会や毎年たのしみにしていた花見会を断腸の思いで止めました。それでも再開するとすぐにいつも通りの仲間に戻れるのはオリーブの会9年間の絆があるからです。

オリーブの会の笑顔の再会には二つの難問がありました。一つはコロナウイルス対策です。傾聴活動は3密そのものです。「もう傾聴はできないかもしれない」と思う一方で「どうしたらやれる?」「やれるところからやってみよう!!」という震災直後の発想が戻ってきました。会場の除菌、マスク配布、机、イスの距離を保つ、対面シールド試作といった物理対応は亘理教会が全てやってくれました。被災者の心は? 亘理町に感染者が出ていないせいか皆さんとっても積極的に参加の意志を示してくれました。



写真上：いつものように全員でのお祈りから始めました

写真左：シールド越しに久しぶりのおしゃべり

もう一つの難問は感染の恐れぐあいの温度差です。仙台市内は感染者が増え八木山教会近辺にも感染者が出ると危機感が高まりました。とても教会全体で応援できる状況ではありません。オリーブの会は亘理・八木山二つの教会協働で歩んできました。私は八木山の危機感が高まり協働が難しくなったと亘理教会に手紙を出しました。すぐに亘理教会から「八木山が参加できなくても亘理だけでもオリーブの会を進めたい」と申し入れがありました。私は教会全体への呼びかけは無理だけど有志の個人参加をコロナ対策のテストとしてやってみるのは出来ると判断しました。



6月7月のオリーブの会はコロナ対策を続け、様々なアイデアや工夫が積み重ねられています。ボランティアスタッフ青い鳥の応援もありマスク作りや巾着作りを実施しました。歌や食事会、大きな声での会話が制限されていても気心の知れた仲間との出会いは嬉しいものです。感染者の増加や地域への影響を配慮して今後の集いを方向づけてゆきたいと考えています。

コロナ状況の正しい知識、情報を判断して自分の基準が正しい? かどうか問い続けられるようになるでしょう。今まで以上に思いやりや祈りの一致が求められていると思います。



参加した全員が、ともに再会を喜び、和やかなひとときを過ごしました

2020年 東日本大震災復興支援タオルについて



仙台教区サポートセンターでは、昨年に続き作成した「復興支援タオル」を北海道から沖縄県まで全31都道府県の皆様からお申込みをいただきました。多くの方々のご支援に感謝いたしております。

今年は、3.11のミサが元寺小路教会でささげられる予定でしたので、ご参加くださる方々のために、タオルを取り除けておりました。ところが、新型コロナウイルスの感染拡大によりミサが取りやめになったため、タオルの在庫がございます。ご希望の方はお電話やメールで、サポートセンターまでお申込みください。

【お問合せ先】仙台教区サポートセンター

電話：022-797-6643

*タオル1枚につき、300円以上のご寄付をお願いいたします(送料別)

*送料は着払いとなりますのでご了承ください。

*いただいた寄付金は、全額、カリタスジャパンを通して、東日本大震災復興支援活動のために使われます。